

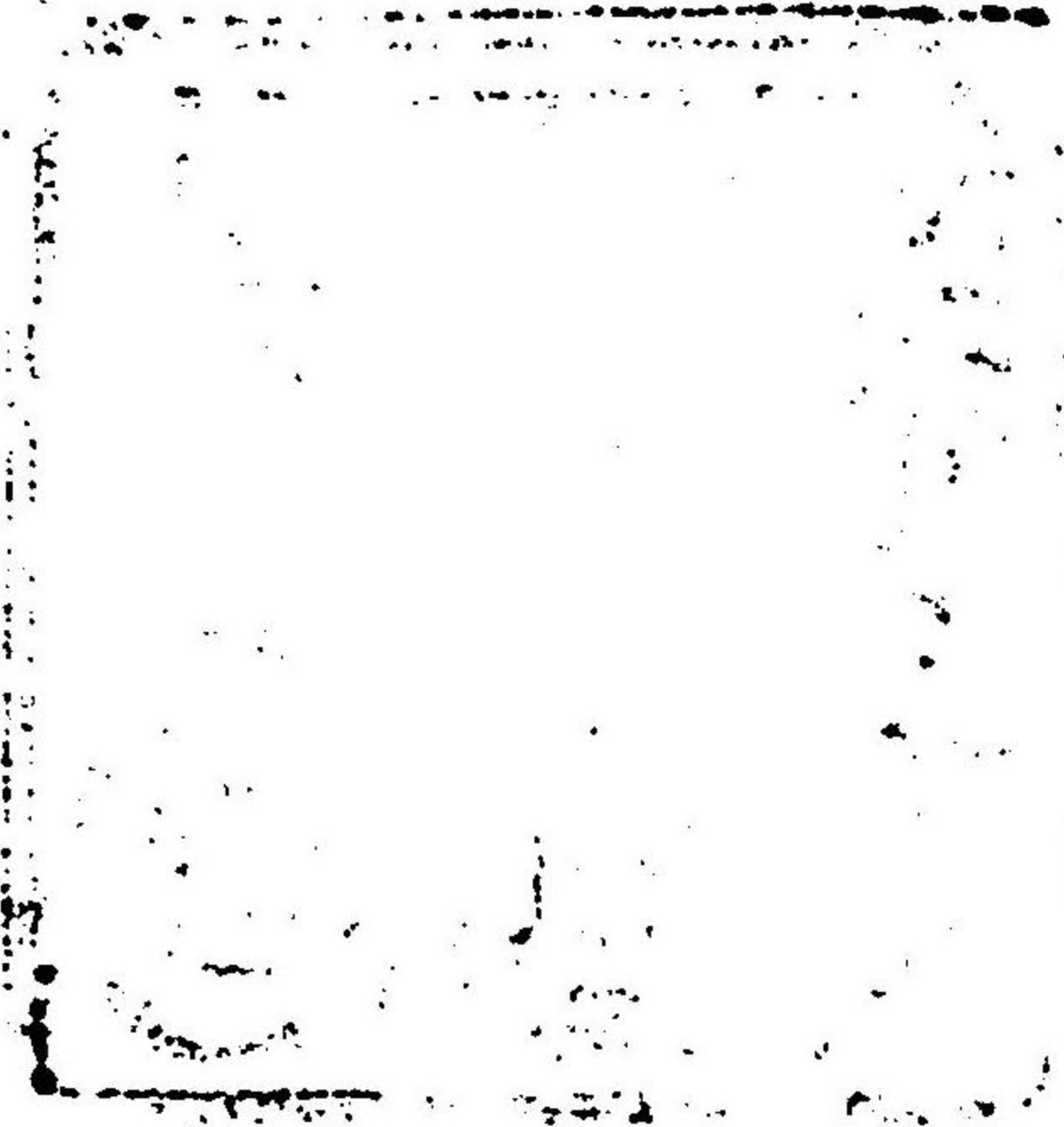
۲۳۳

756

756

256
233

特41
756



正尊

其多西塔乃武藏坊辨慶
傳毛辨君判官殿
殿名十人付中
不和
一人宛
年乃

治
44
17
内交

不和
一人宛
年乃

よるに以^{コノ}其^{カク}慶^ノ平家と責^セ落^{オト}し。此
ま^ホてほ^ホ果^ミてふ。天^ツを怒^イめ四海^{シヤウ}をま
ま^ホに勸^{コト}賞^{シヤウ}れこなりをむく^クの^ノ威^イは後
邊^ヘま^マく梶^{カキ}原^{ハラ}の^ノ平^{ヘイ}樽^{ソン}の^ノ異^イ見^{ケン}とを^ト家^カ
引^ヒき^キひ^ヒさ^サさ^サし^シ遺^イ恨^{コン}より。神^{カミ}志^シ
と^ト後^ゴ奏^{ソウ}た。所^{トコロ}兄^{ケイ}弟^{テイ}系^{ケイ}法^{ホウ}中^{チュウ}不和^{フワ}
由^ユ終^{シユウ}自^ジて^テい^イふ^フ又^{マタ}後^ゴく^クら^ラよ^ヨり^リ去^{シヨ}使^シに^ニい^イふ

を^ヲ申^{マシ}者^ノ。明^{アカリ}白^{ハク}部^フ入^リら^ラる^ルが^ガ早^{ハヤ}く^クわ^ワの
君^{キミ}と^ト稱^{ナヅ}ら^ラひ^ヒ申^{マシ}ま^マし^シ為^ニし^シを^ヲ急^{イサ}ぎ^ギま^マし^シ急^{イサ}
る^ル連^{レン}く^クま^マれ^レら^ラの^ノ所^{トコロ}後^ゴあ^アる^ル程^{ハジメ}は
ゆ^ユて^テ去^{シヨ}使^シが^ガ接^{セツ}宿^{シュク}へ^ヘとい^イう^ウま^マの^ノ使^シい^イふ^フ
業^ノ内^ノの^ノ判^{ハン}官^{カン}殿^ノより^{ヨリ}所^{トコロ}使^シに^ニい^イふ^フま^マし^シら^ラ
し^シま^マし^シく^クい^イふ^フに^ニお^オも^モた^タる^ル内^ノは^ハい^イふ^フか^カ
お^オも^モた^タる^ルも^モあ^アら^ラあ^アら^ラし^シや^ヤ先^{サキ}に^ニ洗^{シヤウ}方^{ホウ}へ

度振るゝめがら唯くは供中事と
身罪とさきぬむし殿は早も
圃なるハナノ上にテ坊もハナノ上ああら
にいま母のくるふもさうなる事も
伊たあらまゝなる事なむらう
なる事ハナノ上もハナノ上の事なまえて名
をハナノ上もハナノ上もハナノ上もハナノ上
事なまえて名

心はさる事なまらる判友に方と
なして長てぬある事なまらる判友
少中よ古流坊のや相河の為小く
有る鎮倉殿よりはなる起りハナノ上に
候さるる事なまらる事なまらる判友
事なまらる事なまらる事なまらる
別乃子細なる事なまらる事なまらる

思言候。かまへて能守護ありき候と
て我御徳ありしき判より申さるあ
り。義経討ふるたる御使と社に
ほえたなき。御徳ありく。各共を
指さる候なり。宇治頼田志格を
まじは。都鄙のちぎしなる候と
あ。思言。と。使坊と。物

務する。かまへて。たさる。て。討中。き。と
社に。討ふ。候。なり。と。め。私。僧。は。れ
し。と。ま。は。法。師。と。ま。あ。は。れ。程。師。と。は。御。ま
り。荒。勿。然。と。も。き。し。ひ。入。り。候
言。ふ。よ。も。君。と。我。に。出。し。候。と。も
は。ま。が。お。武。略。の。武。藏。殿。た。り。有。ま。し。ま
を。申。さ。さ。り。て。社。に。兄。弟。は。中。に。ま。り

くわんりんがしき事なるがしき事なるがしき
志のこころをさしむるがしき事なるがしき
給へば一坊はく所復さへんことを行
ふよのこころをさしむるがしき事なるがしき
宿願のこころをさしむるがしき事なるがしき
たよりてのこころをさしむるがしき事なるがしき
経と銀金へし入らば道よりあひ

かゝる事一事ハなるハ 且事ハ
あるがしき事なるがしき事なるがしき
意あはしむるがしき事なるがしき
唯今所目ハなるがしき事なるがしき
席とさしむるがしき事なるがしき
者さく自業に日と書はるるがしき事なるがしき
ころわくしき事なるがしき事なるがしき
發つて申起請

文乃子。上の栲天帝。叙曰。大天王。同。魔
法。王。道。入。冥。宮。泰。山。府。君。下。界。此
地。よ。伊。勢。天。照。太。神。と。祀。し。伊。豆
箱。根。富。士。清。田。懸。野。三。可。人。金。峯。山
王。城。乃。鎮。守。稻。荷。祇。園。夜。舟。貴。船。八
幡。三。可。松。乃。尾。ひ。ら。れ。懸。り。て。日。本。國。の
大。小。各。神。祇。冥。道。清。く。懸。り。て。也。於

い。ひ。て。我。れ。神。念。を。正。存。討。手。小。石
上。お。乃。前。し。此。子。偽。り。是。あ。ら。べ。此。誓
言。此。所。尋。所。乃。り。り。我。世。を。阿。鼻。よ
陸。罪。粉。ら。ま。し。ん。者。乃。る。も。仍。く。起。請
文。か。く。は。あ。り。文。治。元。年。九。月。日。正
存。と。讀。上。た。る。の。才。れ。毛。も。よ。り。て。也
多。り。も。り。の。中。に。我。虚。言。と。の。思。入。た。文。を

三

七

振うくきたる器を感とて原一
めしゆさうたを下の物
前よ儀の司もめは浄とり入
白拍子やうさうさつたさ
まぐ花うらめは染をたぐひあさ
舞の袖君の代も母うひとひ
おの塵れサ上人さう雲うねひをなれ

まぎく山と峰まで
契りて頼中れく
非ぞ考らんよく申せし
いさめられ出流坊前を
まの寝前早泊ひらき給なればらく
出申早泊多りの早泊いた上へ
宿所と目きつた志は家幕

乃内は美とあひらけたる舞の目
武具とて、テあつたるものも多見え
て、テあつたるものも多見え
作判本よも、テあつたるものも多見え
ほの事とて、テあつたるものも多見え
かゝる事とて、テあつたるものも多見え
す。テあつたるものも多見え

御テあつたるものも多見え
廊下出給ひ、テあつたるものも多見え
おあつたるものも多見え
浪テあつたるものも多見え
ころあつたるものも多見え
志テあつたるものも多見え
衆テあつたるものも多見え

正當の神也九郎大支判官殿

乃討平太將給もつてのうらやう所

殿もつてのうらやう所

味方は幾いそむるからくある出流

坊とゆらむと我もくもむ中

には田原三郎并太郎毎慶とまじ

やしてはつておぼくもむとまじ

乃無後り何ひ巻一下下で下終

多り早其時毎慶たまてますと

いひ去佐坊徳まけの極もおぼれうら

起清乃野をならま代あふる

いた一太刀やまら向まづ先大將う

まきくおあつてころむらあらし

まきくおあつてころむらあらし

大晴器具^{ナリ}に^{ナリ}練^{ナリ}の^{ナリ}梅^{ナリ}女^{ナリ}の^{ナリ}た^{ナリ}す^{ナリ}
事^{ナリ}の^{ナリ}ま^{ナリ}じ^{ナリ}る^{ナリ}の^{ナリ}あ^{ナリ}ら^{ナリ}ほ^{ナリ}も
ふ^{ナリ}ま^{ナリ}の^{ナリ}さ^{ナリ}の^{ナリ}あ^{ナリ}ら^{ナリ}ほ^{ナリ}も
人^{ナリ}の^{ナリ}娘^{ナリ}の^{ナリ}年^{ナリ}次^{ナリ}光^{ナリ}景^{ナリ}也^{ナリ}と^{ナリ}大^{ナリ}音^{ナリ}上^{ナリ}
て^{ナリ}そ^{ナリ}の^{ナリ}宗^{ナリ}を^{ナリ}も^{ナリ}す^{ナリ}　　宗^{ナリ}の^{ナリ}あ^{ナリ}ら^{ナリ}ほ^{ナリ}も
あ^{ナリ}ら^{ナリ}の^{ナリ}梅^{ナリ}の^{ナリ}女^{ナリ}が^{ナリ}去^{ナリ}つ^{ナリ}た^{ナリ}が^{ナリ}即^{ナリ}ち^{ナリ}未^{ナリ}れ^{ナリ}た^{ナリ}が^{ナリ}不
足^{ナリ}の^{ナリ}者^{ナリ}を^{ナリ}れ^{ナリ}だ^{ナリ}　　志^{ナリ}を^{ナリ}ば^{ナリ}報^{ナリ}ぎ^{ナリ}し^{ナリ}と

長^{ナリ}刀^{ナリ}や^{ナリ}が^{ナリ}る^{ナリ}ほ^{ナリ}　　宗^{ナリ}の^{ナリ}あ^{ナリ}ら^{ナリ}ほ^{ナリ}も
に^{ナリ}き^{ナリ}ん^{ナリ}た^{ナリ}も^{ナリ}長^{ナリ}刀^{ナリ}と^{ナリ}打^{ナリ}ら^{ナリ}し^{ナリ}　　宗^{ナリ}の^{ナリ}あ^{ナリ}ら^{ナリ}ほ^{ナリ}も
が^{ナリ}さ^{ナリ}ば^{ナリ}又^{ナリ}も^{ナリ}あ^{ナリ}ほ^{ナリ}　　宗^{ナリ}の^{ナリ}あ^{ナリ}ら^{ナリ}ほ^{ナリ}も
た^{ナリ}と^{ナリ}あ^{ナリ}ら^{ナリ}ほ^{ナリ}も^{ナリ}あ^{ナリ}ら^{ナリ}ほ^{ナリ}も
て^{ナリ}行^{ナリ}く^{ナリ}ら^{ナリ}し^{ナリ}　　宗^{ナリ}の^{ナリ}あ^{ナリ}ら^{ナリ}ほ^{ナリ}も
あ^{ナリ}ら^{ナリ}の^{ナリ}さ^{ナリ}の^{ナリ}あ^{ナリ}ら^{ナリ}ほ^{ナリ}も
より^{ナリ}も^{ナリ}　　宗^{ナリ}の^{ナリ}あ^{ナリ}ら^{ナリ}ほ^{ナリ}も

256
233

複製不年



發行兼
印刷者

京都市上京区三条通美屋町東九角

檜

常之

(特電話二五)
(振替貯金大阪)



訂正者 観世清



明治廿二年六月廿五日從
出版御届濟
同 廿四年一月廿八日迄
同 四十三年四月廿五日從
再版
同 四十四年十月廿五日迄
同 四十四年二月十五日別製本御届

て今叶いと馬よりありき証入を
義経打あより直し給りなれどもとら
きん強ひ給へばし法なき切拂切拂ふ
まな叶りしとひきたちけること辨まお
つらめ致ひたるが押らるるむじもとくえ
いやと投をた辨みため縄うち懸く
懸勢因入とひるも世の肉みぞへ入る

